

米国オレゴン州ポートランドより

Papé Family Pediatric Research Institute
Oregon Health and Science University

望月 牧子
(千葉大学大学院医学研究院)

私は、米国のオレゴン州ポートランド市にあるオレゴン健康科学大学（Oregon Health and Science University: OHSU）に2年間の滞在予定で留学しています。留学当初は留学先研究室からの給料の支給もなかったため、生活費とそれに精神的にも上原記念生命科学財団様の海外研究助成金に大変助けられました、関係者の方々に御礼申し上げます。

博士課程の時から、所属していた研究室の諸先輩方に「留学はすごくいいものだ」と話を聞いていて、いつかは私も海外で研究・生活がしてみたいと思っていました。しかし、私は家族に海外在住経験者もいないし、英語も学会以外で使ったことがない“普通”の日本人女性で、2人の子供の母親なので、博士号取得後数年は育児と研究との両立でいっぱいだった日々でした。留学を何度か諦めたこともありましたが、夫の転職についていくという形で6年目にしてやっと叶いました。

ポートランド市は人口60万人規模で、私の出身の岩手県盛岡市と同規模の小さな都市です。ただし、OHSUはインターナショナルな大学で様々な国の出身の人がいます。最初、私はラボで英語が話せない、聞こえないのが辛かったのですが、エジプト人と韓国人の同僚に色々アドバイスを貰って助けられました。また、日本のどの大学よりも充実しているのではないかと、というくらい研究設備が恵まれている環境でした。全研究室が顕微鏡やフローサイトメトリー等の高額機器をシェアできるコアファシリティ制は日本の研究機関も導入すればいいのにと感じました。さらに印象的だったのが、夕方17時を過ぎるとボスも研究室のメンバーもさっと帰宅する所で、ついうっかり遅くなってしまって18時に周りを見回すと誰も居なかったことがありました。「お先に失礼します」を言わなくてもよい環境は子持ちの女性研究者の私にとって、とても快適でした。

ボスの Peter Kurre は、Science が好きな少年のような人です。私は留学前、自分で研究課題を設定することについていまいち自信がなかったのですが、Peter と議論することで成長できたと思っています。ボスの言う通りに研究を進める訳でもなく、かといって全て自分でやりなさいということではなく、わからないことは一緒に考えてくれる、そのような環境を与えてくださったことを Peter に感謝しています。「一日の終わりに今日は楽しく仕事ができたと思ったら明日も頑張れる」という Peter の言葉は私にはとても真似できないと

思いましたが、素晴らしい考え方だなと思いました。

たった2年間の留学期間だったのですが、紙面には書ききれないくらいドラマチックなことが沢山あって、私にとっては一生の思い出になるのだろうと思います。日本にいて留学されていない方でもトップレベルの研究をされているので一概に絶対に留学すべきだとは言えないのが今の日本の研究環境だと思いますが、私のように壁にぶつかっている人や色々経験したい方にはお勧めしたいです。

(2019. 4. 16受領)